

表紙写真:
(上)
リニア・鉄道館
(下左から)
YOKUMOKU
東京駅一番街店
ウェンディーズ
表参道店
龍谷ミュージアム



株式会社 丹青社 代表取締役社長

青田 嘉光

株主の皆様におかれましては、日ごろより格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

■当期を振り返って

当連結会計年度(2011年2月1日～2012年1月31日)におけるわが国経済は、東日本大震災により受けた経済活動の停滞に秋以降緩やかな回復が見られたものの、欧州の債務危機に端を発する世界的な景気の減速基調等、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当ディスプレイ業界の事業環境につきましても、個人消費が本格的な回復に至らない中、企業の設備投資や販促関連投資は弱含みで推移しており、依然として予断を許さない状況が続いております。

このような状況のもと当グループは、中期経営計画に基づき、厳しい経営環境の中でも確実に利益を創出し、成長し続けるべく強靱な企業体質の構築を目指して経営改革に取り組んでまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は520億49百万円(前連結会計年度比2.6%減)となり、営業利益は7億21百万円(前連結会計年度比29.3%減)、経常利益は8億7百万円(前連結会計年度比23.1%減)、当期純利益は5億73百万円(前連結会計年度比29.4%減)となりました。

なお、当連結会計年度の受注高は475億85百万円(前連結会計

年度比15.3%減)となりました。

また、今後の経営環境等を考慮し、当期の期末配当金につきましては、1株当たり4円とさせていただきます。

■次期の見通し

今後の見通しにつきましては、東日本大震災の影響からは回復が見られますが、欧州の債務危機に端を発する世界経済の下振れ懸念、円高の進展、個人消費の停滞、雇用情勢の悪化等の懸念材料も依然として残っており、予断を許さない状況が続いております。

当グループを取り巻く環境につきましても、都市再開発等、一部の市場において回復の兆しがあるものの、震災の影響による受注環境の悪化および一段と激しくなる価格競争等、引き続き厳しいものが続く見通しであります。

当グループといたしましては、中期経営計画に基づいた体質改善のための諸施策に取り組み、堅実経営に徹することにより、中長期的に安定した利益を確保し続けることができる企業への変革を目指してまいります。

なお、2013年1月期の連結業績予想につきましては、売上高510億円、営業利益は11億10百万円、経常利益は11億50百万円、当期純利益は9億40百万円となっております。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2012年4月

商業その他施設事業

連結売上高 **291億63**百万円

連結営業利益 **1億15**百万円

商業その他施設事業では、駅周辺の再開発に伴う大型物件、空港のリニューアルに伴う共用スペースや店舗などの新・改装工事、アミューズメント施設の新装工事等を手掛け、売上高、利益ともに堅調に推移いたしました。

システムコントロールフェア2011 三菱電機ブース



チェーンストア事業

連結売上高 **126**億円

連結営業損失 **3億38**百万円

チェーンストア事業では、ファストファッションやファストフードの業態において、既存顧客の需要の一巡による受注の減少を新規顧客で補ったものの、利益を創出できる体制を整えるまでには至らず、売上高、利益ともに低調に推移いたしました。

United ARROWS green label relaxing 西宮ガーデンズ店



文化施設事業

連結売上高 **80億58**百万円

連結営業利益 **4億68**百万円

文化施設事業では、大型の企業資料館や科学館等を手掛けたことにより、売上高は堅調に推移いたしました。東日本大震災による計画の中止や延期等が影響し、利益は低調に推移いたしました。

京都府京都文化博物館



その他

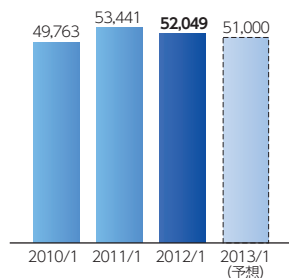
連結売上高 **22億27**百万円 連結営業利益 **4億54**百万円

その他では、商業施設における運営・管理業務等の売上高は減少したものの、事業の効率化・スリム化を図った結果、利益は改善し、また、不動産賃貸管理業務等は売上高、利益ともに堅調に推移いたしました。

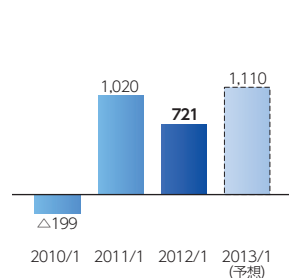
Consolidated Financial Highlights

連結財務ハイライト

● 売上高 (単位:百万円)



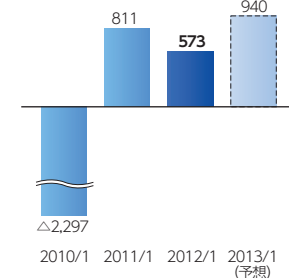
● 営業利益 (単位:百万円)



● 経常利益 (単位:百万円)



● 当期純利益 (単位:百万円)





進化する高速鉄道の社会的意義を伝える



高速鉄道の社会的意義を訴求して 当社が拜命

2011年3月にオープンした「リニア・鉄道館」は、蒸気機関車から新幹線、さらに超電導リニアにいたる計39両の実物車両を展示し、日本の高速鉄道の進歩を体感できるミュージアムです。車両展示のほか、鉄道ジオラマや運転・車掌体験シミュレータ、高速鉄道の技術や歴史のコーナーなど多彩な展示で構成されています。

オープンの約4年前、本プロジェクトの基本計画のためのコンペにより、当社が選定されました。選定理由は、「高速鉄道の社会的

意義を明確に伝える」という私たちの基本コンセプトがクライアントの趣旨にマッチしたこと、当社がミュージアムの豊富な実績を有していたことでした。その後引き続き、展示設計、展示製作を受注しました。



試行錯誤を繰り返した企画、レイアウト検討、 細部にまでこだわり抜いた展示内容

約半年間の基本計画段階では数十パターンの車両レイアウトを提案し、CGにも起こしながら、クライアントと幾度も検討を重ねました。こうした中でも特に注力したのが「シンボル展示」と大空間の「車両展示エリア」です。

世界最高速度を記録した3つの車両が並ぶ「シンボル展示」には、1車両を原寸で投影できる幅29mの超大型高精細スクリーンを設置し、鉄道の高速度の歴史やその社会的な意義を伝えています。また1両ごとに照明演出を加えるとともに、車両解説を用意して、車両の社会的意義を引き出しています。

一方、歴代の新幹線や在来線の「車両展示エリア」は、各車両の先頭をずらしたV字レイアウトとすることで高速鉄道のスピード感を表現しました。このシンボル展示と車両展示エリアとは、来館者がワクワク感を感じられるように、「暗」「明」の照明的コントラストをつけ、空間全体で演出しています。

ミュージアム。



プロジェクトに携わった文化空間事業部のメンバー

(前列左から)

デザイン	吉田 康寛
制作	三澤 彰生
ディレクション	和田 明彦
プランニング	建石 治弘

(後列左から)

映像・音響システム	後藤 洋一
デザイン	石渡 美穂
情報システム	曾我 智之
渉外	鶴岡 誠



車両間のプラットフォームは、展示的に検討を加えた、当社設計・施工の作品の一つです。安全性、車両の見栄えとホーム自体のデザイン性、バリアフリーや車内見学のための動線設計などさまざまな要素を最適化しています。

人気の「鉄道ジオラマ」は、東京-新大阪間を舞台に、東海道新幹線フル編成16両(全長約5m)のHOゲージ鉄道模型を運行させるため、日本最大級の面積になりました。その運行もプロであるクライアント自ら運行ダイヤを編成いただきました。特に、鉄道とともにある日常シーンの再現は、数多くのフィギュアを配置して“精緻さ(リアリティ)”を追求しました。従来よりジオラマを得意としてきた当社の傑作がまた一つ生まれました。そして公式のジオラマガイドブックへとスピニングも果たしました。

こうした情熱と努力が、2011年ディスプレイ産業大賞受賞という形で実を結びました。

魅力コンテンツ満載で 抜群の集客力を誇る人気スポットへ

年間60万人の目標を掲げていた来館者数は、オープンから10ヵ月あまりで100万人を突破しました。子どもたちの学びの場として、車両の保存施設としても意義深い「リニア・鉄道館」は、一般の方々の鉄道への理解を深め、広く社会に貢献するとともに、産業観光の推進につながるかと期待されています。そして今後、わが国の高速鉄道技術を、国を挙げて諸外国にアピールする場としても寄与するものと思われます。

当社はこれまで国や自治体などによるミュージアムづくりに多数参画してきましたが、今回はクライアントが民間企業でしたので、公共団体さまとは異なる考え方や進め方を、改めて学ぶことができ、ソリューション力を増強できました。クライアントと向き合いながら誠実に取り組むことで、公共分野、あるいは民間分野のミュージアムづくりに活かしていけると確信しています。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前 期	当 期
	2011年1月31日現在	2012年1月31日現在
(資産の部)		
流動資産	20,499	15,673
固定資産	10,185	10,077
有形固定資産	6,037	5,895
無形固定資産	278	392
投資その他の資産	3,870	3,789
資産合計	30,685	25,751
(負債の部)		
流動負債	16,985	11,496
固定負債	4,297	4,368
負債合計	21,283	15,865
(純資産の部)		
株主資本	9,202	9,674
資本金	4,026	4,026
資本剰余金	4,024	4,024
利益剰余金	1,191	1,665
自己株式	△40	△42
その他の包括利益累計額	199	211
その他有価証券評価差額金	223	236
為替換算調整勘定	△24	△25
純資産合計	9,401	9,885
負債純資産合計	30,685	25,751

 POINT
1

 POINT
2

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前 期	当 期
	自 2010年 2月 1日 至 2011年1月31日	自 2011年 2月 1日 至 2012年1月31日
売上高	53,441	52,049
売上原価	46,351	45,159
売上総利益	7,090	6,890
販売費及び一般管理費	6,069	6,168
営業利益	1,020	721
営業外収益	263	230
営業外費用	233	144
経常利益	1,050	807
特別利益	37	46
特別損失	64	101
税金等調整前当期純利益	1,024	752
法人税、住民税及び事業税	208	210
法人税等調整額	3	△31
少数株主損益調整前当期純利益	—	573
当期純利益	811	573

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前 期	当 期
	自 2010年 2月 1日 至 2011年1月31日	自 2011年 2月 1日 至 2012年1月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	856	1,733
投資活動によるキャッシュ・フロー	△150	△133
財務活動によるキャッシュ・フロー	△474	△2,304
現金及び現金同等物に係る換算差額	△27	△4
現金及び現金同等物の増加・減少(△)額	204	△710
現金及び現金同等物の期首残高	4,221	4,426
現金及び現金同等物の期末残高	4,426	3,716

POINT 1

資産の部の合計額は、前連結会計年度末に比べて16.1%減少し、257億51百万円となりました。これは主に受取手形・完成工事未収入金等が12億53百万円、未成工事支出金等が28億5百万円それぞれ減少したことによるものであります。

POINT 2

負債の部の合計額は、前連結会計年度末に比べて25.5%減少し、158億65百万円となりました。これは主に支払手形・工事未払金等が20億5百万円、短期借入金が25億円それぞれ減少したことによるものであります。

丹青社ウェブサイトリニューアル

<http://www.tanseisha.co.jp>

2011年12月20日にコーポレートウェブサイトリニューアルしました。

今回のリニューアルでは、当社のサービスや提供価値をより分かりやすくお伝えするため、各種コンテンツの充実を図りました。また、より見やすく使いやすいサイトを目指し、サイトの構造やナビゲーションを見直すとともにデザインも一新しました。

今後も継続的にコンテンツの充実を進め、当社のサービス、実績紹介、取り組みをタイムリーに発信してまいります。



課題解決と空間づくり

お客様の空間への想いや空間にかかわる課題に対して、丹青社がどのようなプロセスで課題解決をお手伝いしてきたのか、施設完成までのバックグラウンドストーリーを詳しくご紹介するコンテンツを新設しました。

CSRへの取り組み

私たち丹青社は、社会からその価値と存在意義を認められ、また社会の発展とともに歩み、成長する、そうした企業であり続けたいと願っています。これまで継続的に取り組んできたCSRアクションをご紹介するコンテンツを新設しました。

IR情報

株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、積極的に情報開示を行っております。当社をよりご理解いただくためにも、ぜひご利用ください。



「人づくりプロジェクトSHELF展」開催

2011年9月にアクシスギャラリーで「人づくりプロジェクトSHELF展」を開催いたしました。

当社では、新入社員教育の一環として、実際にものをつくるプロセスを通して、「考え方をまとめて行動をおこすまでの思考のプロセス」と、「それを成果として具現化する力」を身につけることを目的とした



「SHELF制作研修」を行っております。

これからも空間づくりのプロフェッショナルとして、お客さまや社会の期待に応えられる人材の育成に努めてまいります。

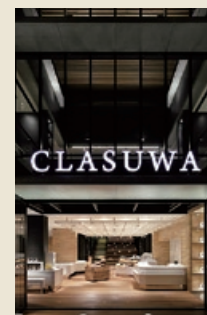
2011年度グッドデザイン賞を受賞

当社がデザインでお手伝いをさせていただいた「くらすわ」が、2011年度グッドデザイン賞を受賞しました。

「くらすわ」は、養命酒製造様が「信州の文化と四季を楽しむ健康生活」を提案する複合店舗です。

「信州地域の個性・独自性を表現したい」というご要望を受け、当社が提案した、信州在住の作家・職人との出会いやコラボレーションのストーリー、その作品を紹介するショーウィンドウを核とした商業空間づくりが評価されました。

建築設計・施工：(株)竹中工務店
内装設計：(株)竹中工務店、(株)丹青社
ショップVI・アプリケーションデザイン：(株)丹青社



株式の状況 (2012年1月31日現在)

株式の総数
 発行可能株式総数 96,000,000株
 発行済株式総数 24,832,857株
 株主数 3,040名

大株主

株主名	持株数	持株比率
丹青社取引先持株会	1,478千株	6.0%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,457	5.9
株式会社みずほ銀行	1,078	4.4
株式会社三井住友銀行	1,028	4.2
第一生命保険株式会社	978	4.0
日本生命保険相互会社	926	3.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	875	3.5
丹青社従業員持株会	862	3.5
株式会社三菱東京UFJ銀行	760	3.1
東京海上日動火災保険株式会社	332	1.3

株主メモ

事業年度 2月1日から翌年1月31日まで
 配当金受領株主確定日 期末配当1月31日/中間配当7月31日
 定時株主総会 毎年4月
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 〒137-8081

東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 Tel.0120-232-711(通話料無料)

上場金融商品取引所 市場第一部
 公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL <http://www.tanseisha.co.jp>
 (ただし、電子公告によることのできない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

ここを動かす空間をつくりあげるために。

株式会社 丹青社

〒110-8549 東京都台東区上野5丁目2番2号
 Tel. 03(3836)7221(代表) Fax. 03(3836)1380(代表)

会社概要 (2012年1月31日現在)

商号 株式会社丹青社
 設立 1959年12月25日
 資本金 40億2,675万657円
 従業員数 769名(連結1,085名)


役員 (2012年4月19日現在)

代表取締役社長 青田 嘉光
 取締役 高橋 康夫 (丹青創藝設計諮詢(上海)有限公司董事長)
 取締役 鈴木 清明
 取締役 高橋 貴志
 取締役 森 俊憲 (文化空間事業部長)
 取締役 橋本 俊朗 (北京丹青嘉輝建築裝飾有限公司董事長)
 取締役 徳増 照彦 (CS事業部長)
 常勤監査役 鈴木 義隆
 監査役 余田 幹男
 監査役 山田 博重
 監査役 長谷川 明

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
 アクセスコード 9743

いいかぶ 検索  Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヵ月間です。

ご回答いただいた方の中から
 抽選で薄謝(図書カード500円)
 を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
 「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

撮影者:市川靖史/井原悠一/ナカサ&パートナーズ/
 ピップス 御園生大地/フォトクラフト社/
 フォワードストローク

